

評価日平成 29 年 5 月 8 日

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 東京スイーツ&カフェ専門学校 自己評価及び学校関係者評価委員会

自己評価報告責任者：校長 高田幸一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中島 誠

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 自己評価

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

・数年前より入学前に保護者へ教育方針等の説明会を実施し、本年度も開催したが、まだ学校行事などにおいて授業参観や見学などの機会は多くはない。今後も業界が求める人材を理解し、教職員において浸透を継続していくべきである。

②今後の改善方策

・全教職員に理想像や行動方針を可視化し、年間通して一定のレベルを保てるように取り組んではいるが、教職員の中での意識統一や理解の均等化については、継続的に注力が必要な点である。

③特記事項

・本年度も引き続き、株式会社プロントコーポレーション様との商品開発や、他企業との産官学連携活動にも力を入れ業界との接点や習熟スキルの向上に努めていきたい。

④学校関係者評価委員コメント

・インターンを受け入れる前に可能であれば事前の顔合わせや、対象生徒との打ち合わせなどの時間が取れるとよい。

・委員の勤務先であるウェディング関連の職場などでは、プラチョコ、マジパンなどで制作を求められる機会も多い。そのような業界を目指したり就業する卒業生も少なくないのであれば、在学中にもその辺りを想定して内容を充実させていくことも必要かもしれない。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

・教育機関として一般社会のコンプライアンスに対する理解とリスクマネジメントは引き続き高い意識を持って取り組むことが必要である。

・様々な立場の教職員が教務に関わっている中で、経験値や年齢、社歴を超えて業務の理解度を改善し、一体化できるような取り組みも継続的に必要である。

② 今後の改善方策

・昨年も実施したが、姉妹校の業務・授業見学や各種教職員研修の場を設定していきたい。

・保護者への情報公開は継続して行い、生徒の状況報告を通じてご家庭との連携をより深めた教育環境を整える。

③ 特記事項

・期末、始め毎の全教職員と対象とした会議、パティシエ専攻・カフェ専攻の教職員ごとの教科会、毎週の担任会議、上長や先輩教職員と後輩教職員のOJTトレーニング、定期の運営会議、任意の勉強会などを実施しており、意識の統一や情報の共有には注力している。

④ 学校関係者評価委員コメント

・先生と生徒の距離は近いが、注意すべき時はしっかりと注意してくれた。今後もその距離感は保ちながら適切な教育を提供してほしい。

・ゆとり世代から、現状維持世代に移行しているような感じを受ける。上昇志向や成長志向が希薄な生徒が多い中、叱ると怒るの違いを理解した指導がさらに求められる時代に。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (3) 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

・学内だけではなく、関係企業様をはじめ外部の方から評価をいただく機会や、生徒の成功体験を積める機会を精査しながら増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・実習授業の授業内容の一部を外部企業様に評価してもらう仕組みを推進する。
- ・関係企業様をお招きしての学内研修会の実施を増やすなど、教職員のさらなるスキルアップを目指す。
- ・階層別の研修等も増やし、必要に応じた習得すべきスキルの醸成を図る。

③ 特記事項

・例年の取り組みではあるが、学内店舗実習における企業との連携、授業内評価に関しては、一定の教育効果、及び実績をあげることができている。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・相対的に他者評価を実施している点は好ましい。
- ・在校時に比べ、学内外の行事や取り組み、カリキュラムなどがさらに充実していることはうらやましい。
- ・進級や卒業に対しての明確な基準が明確になっているので、生徒や保護者から見ても安心感がある。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・卒業後の繋がりや支援・管理体制にはまだ改善の余地があり、引き続きコミュニティーの確立が必要である。
- ・継続的な退学率低減に関する取り組みが必要

② 今後の改善方策

- ・縦横のクラス間のつながりをさらに強化し、学校全体で常に入学時の目標を薄めないような環境を意識させながら指導にあたる。
- ・保護者の方との接点を増やし、学校教育への協力体制を確立するとともに、遅刻、欠席時の連絡以外にも、期末ごとの発送物などでも学校の様子をお伝えできるような仕組みを作る。
- ・常にアンテナを張り、長期欠席や退学を検討する前にアプローチができるように、早期の問題解決に注力する。
- ・クラス内でなじめない場合には、年度途中でのクラス替えを実施するなど柔軟な姿勢で対応することも必要。

③ 特記事項

- ・学校独自の行事として、レクリエーション大会や留学生交流会などを実施し、クラス間や留学生間で団結できる機会を作り実施している。

・平成 28 年度就職実績 91.7%(就職者/全在籍者)

・平成 28 年度退学率 8.6%(全学年含む)

→特に退学者が多い留学生向けに、上記留学生交流会を定期的実施するなど、年間を通して対策を実施

④ 学校関係者委員コメント

- ・卒業後、何らかの原因で退職をしてしまった卒業生も、企業によっては求める人物像に合致していれば受け入れたい。卒業生対象にした求人なども充実させ、受け皿を拡充してほしい。

・採用者のマッチングに関してはパズルだと思っている。五角形のバランス。製菓やカフェのマッチングを現場でもしっかりしていきたい。逆に学校にお願いしたい部分は仕事に対する意識。マインド的な部分を入職前からしっかりと教育していただけると助かる。

・職場に出ても、在学中も、縦横の関係だけではなくオフィシャル以外に相談できる、斜めの関係のような先輩や教員も必要だと思う。その関係が機能すれば退職や退学を防ぐ砦になってくれることもある。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 (3) 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 (3) 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
中途退学者への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

・各クラス担任は中心となりながらも、実技中心のカリキュラムで担任以外の教員も含め教職員一丸となった指導の継続が必要である。

・前項でも触れたとおり、卒業生に対する支援体制は更に強化していく必要がある。

② 今後の改善方策

・定期的な個人面談のほかにも、都度生徒の状況を鑑みながら個別の対応は適宜機会を作る。

・高等学校への業界、職業理解の促進のため、出張講座などの提案をし実施の機会を増やす。

③ 特記事項

・AO入試での早期入学者には、高校の先生のご意見もお伺いしながら入学までに適切な、かつ継続的な学習の場を提供している。

・昨年は予定していた卒業生対象の交流会が天候悪化のため開催できなかった。今年は改めて検討する。

④ 学校関係者評価委員コメント

・卒業後に学校へ足を運ぶ機会が多いのは好ましいが、仕事が順調な卒業生だけでなく、勤続に悩んでいる卒業生や再就職を希望する卒業生が、もっと気兼ねなく学校を訪れるような案内も必要。

・正社員だけでなく、アルバイトや時限的な求人等も求める求職者に対して幅広く紹介できる環境があれば、より好ましい。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	②	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・都度修繕はしているが校舎の老朽化により、一部空調、換気扇、扉、実習室の水道などの故障がある。
- ・インターンシップやアルバイトから継続して正社員として雇用していただけるようなルートも拡大したい。
- ・防災に関してはあらゆる災害を想定したうえでの危機管理が必要。

② 今後の改善方策

- ・現状も引き続き校舎の移築を視野に検討を進めている。
- ・老朽力所については状況を確認し、予算を確保しつつ改築を行うが、緊急の場合はそれに限らず早急に対応する。
- ・インターンシップやアルバイトも含めた関係構築も促進し、就職状況の強化にもつなげる。
- ・防災マニュアルの見直しや項目追加などの整備を進める。

③ 特記事項

- ・既に求人をいただく際にアルバイトの有無も同時に確認し、学内で紹介できる求人は増加しつつある。
- ・備品については過不足の無いように、年度ごとだけでなく常にニーズに合わせたものを備えるようにしている。

④ 学校関係者委員コメント

- ・細工とかをやっているときの型はもっと種類が多いほうがいいかもしれない。
 - ・例えばマジパンスティックなども、とても数多く持っている人もいる。針金も何色もお客様に見せるように持っている人もいるので、そういう備品の準備も必要かもしれない。ウォーマーやチップなど。(見せる、という観点で)
 - ・備品に関しては新品のものもいいが、古いものでも壊れないように使うためにはどうすればいいかを考えさせることも必要。
 - ・時期によっては忙しいと、洗い物だけの場合もあるので、インターンシップの時期は再検討の余地もあるかも。(ケーキ屋は夏が一番落ち着いている)
 - ・本来は就職と直結している方が好ましい⇒そこのマッチングと教育効果を考えると、忙しくない時の方が受け入れ側も採用検討の余地もあるか。目的が空気を見てもらうことに主眼を置けば、いつでも可能である。
- 目的によって学校として何を求めるのかで、インターンの時期は再考してみる

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
入学選考は、適性に行われているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・留学生の募集方法や入国審査、ビザに関して、教職員の基礎知識向上が必要である。
- ・AO入学に対しての入学希望者、または高校進路担当者の理解を深める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・留学生に対するツールや説明会、または教員勉強会を実施する。また、入学後のフォローや学生情報の把握に努める。

③ 特記事項

- ・入学式前の事前オリエンテーション・保護者説明会を実施し、一定の効果と実績がある。
- ・AO入試制度に関しては、高校生と学校だけで合否判定をせず、事前に保護者・高校の先生の承認を得ているかを本人に確認をしている。
- ・学納金に関しては、他校の学納金水準も参考に教育研究費、実習材料費、人件費、施設設備費などを勘案して適切に決定している。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・募集活動については結果が出ているので、引き続き尽力いただきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・自己評価の実施を行っているが、外部評価を交えて検証もしているが、すべてを即実行できていない。
- ・法令順守に足しての意義浸透と整備が必要。

② 今後の改善方策

- ・自己評価を実施した上で学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会などを通し、外部評価も取り入れた上でより精度の高い状態とし、改善策も都度明確にした上で期日を決めて実行していく。
- ・学園内部別部門委員による教務監査を実施し、法令に沿った書類管理や運営状況に指導を受けている。

③ 特記事項

- ・28年度に開催した上記委員会にて、ご意見をいただき学内会議にてフィードバックを完了している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・職員全体への周知も含め、認識や認識の場を設ける。
- ・書類の保管体制などは、さらに強化したほうが良い。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・地域貢献の実施を今現在も行えているがさらなる強化を図りたい。
- ・来校型の活動を強化し、外部への貢献と同時に地域に理解を深めてもらう活動が必要。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校との連携を促進し、参加家族のニーズを満たす活動を実施する。
- ・授業内にて準備対応ができるようシラバスを運用する。
- ・地域との関与、つながりをしっかりと築く。

③ 特記事項

- ・季節の催事や地域との連携を実施。
- ・地域のニーズに合わせた、貢献活動を実施。(誕生日ケーキの作成、オードブルの提供など)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・環境は準備できているが、機会により貢献度、達成度に差がある。さらに差がある。今後さらに精査したほうが良い。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	②
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	②	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・留学生の卒業後の進路、求人開拓が少ない。
- ・教職員の国際交流に対する知識不足である。
- ・留学生に対する受け入れ体制の柔軟性、環境整備が必要。

② 今後の改善方策

- ・企業様への留学生受験が可能かのヒアリングの徹底。
- ・留学に対する教職員の勉強会の実施。
- ・留学生奨学金、学生支援の斡旋を行う。

③ 特記事項

- ・姉妹校の日本語学校との連携で、交流会の実績あり。
- ・現在留学生の就職斡旋企業との連携を考えている。
- ・国内のマーケットに限らず、広く就職支援の環境を考えていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ビザの関係で就労ビザが調理では許可されない。行政書士を踏まえ手続き費用を負担する企業も含め、開拓が必要。
- ・留学生への求人案内やキャリアワークを含め強化を図る。
- ・姉妹校として日本語学校が開校したこともあり、より一層の留学生のフォローを強化できるのではないかと

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ① 退学率の低減の促進(1年数値目標8.0 %/2年数値目標 5.0 %)
合計6.5%以内に退学率をとどめる目標で取り組む。
担任と教科担当で早期の対策を考えて、退学の“きっかけを見逃さず”と一緒に実行していく。
- ② 「目指す人物育成像」を目指した、教育の徹底
技能と心の調和が教育理念であるが、
【技能】プロを目指す基本(技術・知識・意識)が身についた人物像
【心】(自ら)明るく挨拶・返事・気配り・清掃ができる人物像
と定めて、人材育成に努めていく。
- ③ 企業並びに地域連携を促進する
三方(生徒・教員・相手先)が活動目的をしっかりと理解した連携を行い、良い教育効果を残す。
- ④ 卒業生との繋がり強化していく
学校からの情報通信を送付し、同窓会を夏または秋休みに開催する。
- ⑤ 募集定員を満たすよう生徒募集に努める
入学定員となる160名が入学してくれる学校づくりとPR活動をより早く、効果的に実施する。
同分野の他校と違うオリジナルの学校ブランドを確立する。

飯島副校長より。

学校運営は内向きになることがあるので、いいサービスを目指していても、時には外部の方からご意見をいただくことがとても重要と考えている。もし関係者の方がよろしければ、次回は担任陣も参加させ色々な意見交換ができると有り難い。